

「空気が読めない」とはどういうことか？

：社会的スキルの欠如という観点からの検討

What Does 'Feel the Atmosphere' Mean?

:An Approach from the Deficit of Social Skills

大石 千歳

「空気を読む」とは？社会的スキルの観点から

文部科学省(2006)は、特別な子どもだけがいじめに遭うわけではなく、どの子でもいじめの対象にはなるといふ見解をとっている。それでは、子どもたちの人間関係がうまくいなくなる原因には、どのようなものがあるのだろうか。

その一つのヒントとして、「KY(空気読めない)」という表現がある。2007年に、若者の間でKYという言葉が流行し、マスコミでも盛んに取り上げられた。「空気を読む」ことが上手でない子は、「あの子はKYだ」といわれ、仲間から敬遠されるのだという。

「空気を読む」という言葉は、KYという語の流行や、今日のお笑い芸人ブームとの関連で、テレビにしばしば登場する。しかし、その意味するところは抽象的である。バラエティ番組に登場するお笑い芸人たちは、その場に合った内容のトークを展開したり、相手のおもしろい発言にタイミングよく反応したり、周りから期待されたキャラクターを演じるなどのことに失敗したとき、他の芸人から「空気読めよ!」という指摘を受けているようだ。そこで、「空気を読む」ということを、もう少し学問的に考えてみたい。

「空気を読む」という概念に対する心理学的に明確な定義はないが、国語辞典『大辞泉』には以下にある。「その場の雰囲気から状況を推察する。特に、その場で自分が何をすべきか、すべきでないかや、相手のして欲しいこと、して欲しくないことを臆測して判断する。」(大辞泉,2006)。我が国で「空気を読む」という概念に言及した本としては、古くは山本(1977)

の『「空気」の研究』がある。山本(1977)には、第二次世界大戦時の戦艦大和の出撃が決定された際に、無謀だという意見を押し切ったのはその場の「空気」であったという例などが紹介されている。最近の書籍としては、学術書ではなく一般向けの読み物として、内藤(2004)の『「場の空気」を読む技術』や、和田(2007)の『「場の空気」を読むのが上手な人下手な人』などがある。両書籍ともに、場の空気を読むとは、場の雰囲気や流れ、および人々の意図を先回りして読み取って、それに合わせた適切な言動を取ることでありという主旨が述べられている。

ここで、「空気を読む」という概念をもう少し学術的に捉えてみたい。周囲の人々の意図を読み取ってそれに合わせた適切な言動を取るということは、社会心理学では「社会的スキル」とよばれている。Riggio(1986)によれば、社会的スキルは情動的表現性、情動的感受性、情動的コントロール、社会的表現性、社会的感受性、社会的コントロールの6次元から成り立っている。「空気が読めない」といわれる人は、この6次元のいずれか、もしくは多くが不足していると考えることができる。

社会的スキルに関するArgyle(1967)のモデルは、社会的スキルも運動スキル(体を動かすときの技能)と共通の捉え方ができるというものであった。二者関係において、AがBの様子(泣いているなど)を知覚して、その理由を知りたいと思った時には、その気持ちを「どうしたの?」と尋ねる言葉に翻訳し、相手に伝える。Bがその問いかけに何らかの反応を示すと、その反応がAにフィードバックされて、更なる関わり合いが生じるといった仕組みが存在するという。

相川(1993)の「社会的スキルの生成過程モデル」

および相川(2000)の「生成過程モデル改定版」は、Argyle(1967)を発展させたものである。相川(2000)によれば社会的スキルとは、相手の反応の解釈、対人目標の設定、対人反応の決定、感情の統制、対人反応の実行、対人相互作用という一連の過程を経て、また相手の反応の解釈に戻り、相手との関わりがらせんのように続いてゆくというものである。また、これらの過程のすべてには、行為者が持つ社会的スキーマ(世の中の様々な出来事や対象を捉える際の認知的枠組み)が影響しているという。例えば、AさんはBさんに嫌われているのではないか(相手の反応の解釈)とっていて、仲を修復しようと決め(対人目標の決定)、Bさんににこやかに話しかけようと決め(対人反応の決定)、気持ちを落ち着けてから(感情の統制)、それを実行する(対人反応の実行)。そこにAさんとBさんの対人相互作用が生じ、Bさんがうれしそうなお表情を見せたとAさんは感じ(相手の反応の解釈)、Bさんともっと仲良くしようと思う(対人目標の決定)、といった具合である。社会的スキーマの影響は、これらのすべてのステップに及ぶ。Aさんは当初Bさんに嫌われていると感じているが、それはBさんがあまり笑顔を見せないことをAさんが「私を嫌っている」と解釈しているだけなのかもしれない。Aさんが「人が他人と接するときには、とりあえず笑顔を見せておくものだ」というスキーマを持っていれば、BさんはAさんにそうしていないので、AさんはBさんに嫌われていると感じるのである。

「空気が読めない」ということを相川(2000)のモデルに即して考えると、まず第一段階である相手の反応の解釈が上手にできていないということが考えられる。これがうまくできないと、その後のすべての過程はうまくいかない。すなわち、対人目標が適切に決められない、対人反応が適切に決められない、感情が統制できない、対人反応が適切に実行できない、その結果対人相互作用がうまくいかない、そしてさらに相手の反応を読み損ねるという悪循環が生じることが予測される。また、すべての過程は社会的スキーマの影響を受けるため、社会的スキーマのあり方に歪みがあると、各々の過程において不都合が生じると考えられる。例えば、強い人間不信があって他人の言動を何でも悲観的に認識してしまうスキーマを持つ人は、他人の笑顔さえ「私を

冷笑している」などと捉えて、相手の反応の解釈が不適切になり、対人相互作用がうまくいかない。このような人は、生成過程モデルの各段階がうまくゆかず、他者との関わり方が不適切になり、周りの人に「空気が読めない、ヘンな人」と思われてしまうであろう。

社会的スキルと類似する概念としては、社会的コンピテンス(Social Competence, McFall, 1982など)や情動知能(Emotional Quotient:EQ)、社会的知性(Social Intelligence, Sternberg, 1985)がある。相川(2000)によれば、社会的スキルとは特定の観察可能な対人反応であるが(McFall, 1982)、その対人反応の質を判断した結果を表すのが、社会的コンピテンスであるという。EQは、『EQ:心の知能指数』(ゴールマン, 1996)が日米でベストセラーになったように、教育場面や職場における人間関係能力として注目されている。Salovey & Mayer (1990)によれば、EQは自らの情動のコントロールに関する5つの領域から成り立っている概念であるという。ゴールマン(1996)では、この5領域すなわち自分の情動を知る、感情を制御する、自分を動機づける、他人の感情を認識する、人間関係をうまく処理する、について、様々な例を挙げて説明している。

「空気が読めない」とどんな不都合があるか

さて、これまで「空気を読む」ということの意味するところを、主に社会的スキルという観点から考えてきた。それでは日常的な人間関係において、空気が読めないということは、どのような問題点を孕んでいるのであろうか。

先ほど相川(2000)のモデルに当てはめて考えたように、空気が読めない人は対人葛藤を引き起こすと考えられる。「空気を読む」、すなわち場の雰囲気や流れ、および人々の意図を先回りして読み取って、それに合わせた適切な言動を取ることができないと、集団の和を乱す者として仲間はずれなどにされる危険性が高くなる。集団の中に他のメンバーがどうしたいのかを読み取れないメンバーがいると、そのメンバーは他のみんなの意向に背くことになり、クラスやチーム、仲良くグループの意思決定に支障をきたす。その結果、進め

るべき業務や遊びなどが滞る。他のメンバーはそれを迷惑に思い、そのメンバーを疎ましく思うようになる。

日々の生活においては、その時々で読み取っていかねばいけぬ事柄は多い。今は何をすべきなのか、何をしてはいけないのか、みんなは何の話をしているのか、誰が話の中心になっているのか、みんなはどんな感情でいるのか(はしゃいでいる、落ち込んでいるなど)、何を誰にどのようないい方で言ったら、相手が喜んだり傷ついたりするのか、今の自分の発言で相手がどんな気持ちになったか、自分はそれをどうフォローしたらよいか、みんなは自分にどうしてほしいと思っているのか、など挙げればきりが無い。読み取るべきことは実に多岐に亘り、他者との関わりにおける瞬間瞬間のすべてのことが、「空気を読む」対象になっているといっても過言ではない。「空気を読む」ことは、大人の社会生活でも子どもや若者の学校生活でも、適応状態を左右する重要な要因であるといえる。

「空気が読めない」具体的な言動

それでは、若者は毎日の生活や友人関係の中で、具体的にどのような行為を「空気が読めない」と認識しているのだろうか。空気が読めないという表現は非常に曖昧なものであるだけに、実際に若者がこの語をどのような意味で、具体的に相手のどのような言動に対して用いているかを、まず若者自身の生の声から捉えてみる必要がある。また、「空気を読む」という概念は状況に合わせて反応するという点が最も重要な部分であるので、置かれた状況の違いにより、「空気が読めない」ことの内容が変わってくる部分が大いと考えられる。若者の日常生活は、学級場面、部活動場面、友人関係場面、および高校生、大学生のある程度の割合が経験しているアルバイトの場面などから成立している。これらの各場面において、自由記述法により「空気が読めない」とはどのようなことなのか、その実態を調査することを本研究の目的とする。

様々な社会的関係性や場面での「空気の読めなさ」に関して、具体的な言動に関する自由記述データを収集する究極的の目的は、「空気が読めるようになるには、何をどうすればよいか」を知ることである。漠然

と「周りを見て行動しなさい」「みんなの気持ちを考えなさい」といわれても、「空気が読めない」といわれている人は、恐らく何をどうしてよいかわからないであろう。逆にそれが分かっているくらいならば、「空気が読めない」といわれることはないであろう。自分が空気が読めないといわれる理由を理解できなかったり、自分が空気が読めないと思われていることにそもそも気づいていなかったりすることは多いと考えられる。このような人々に対して、何をどう助言すればよいのかを知ることが大切なのである。具体的な一つ一つの行動や発言のレベルまで分析を具体化・細分化して、こういう時にはこうしたほうがよい、という助言を行うことが必要なのである。

方法

調査回答者

短期大学児童教育学科「児童心理学」受講生112名(短期大学1年生と科目等履修生)。

手続き

授業時間中に質問紙を配布し、その場で記入してもらい回収した。

質問紙の概要⁽¹⁾

今日の若者が学級場面、部活動場面、友人関係場面、アルバイト場面で、どのような振る舞いをするかを「空気が読めない」と見なしているのかを、自由記述によって収集した。

- ・ 短大生(大学生)である現在、同性の友達どうしている場面で、どんなときに友達(同性)のことを「空気が読めない」と思いますか。
- ・ 現在、もしくは高校生のとき運動部に入っている(いた)人だけにお聞きます。部活動をする中で、どんなときに部活の友達(同性)のことを「空気が読めない」と思いますか。
- ・ アルバイトをしている(もしくは、過去にしていた経験がある)人だけにお聞きます。アルバイト先で、どんなときにアルバイト仲間のことを「空気が読めない」と思いますか。

- ・ 「空気が読めない」人に出会ったとき、あなたは
どうしますか。

集計・分類方法

1. まず、短大(大学)での友人関係場面、短大(大学)もしくは高校での運動部活動場面、アルバイト場面という3場面と空気が読めないとはどういうことか、空気が読めない人に出会ったらどうするか、2種類の計5質問について、回答者の自由記述内容を正確にコンピュータに入力した。
2. 次に各質問ごとに回答者の発言を概観し、発言内容から幾つかのカテゴリーを抽出した。回答は一つ一つの文章毎に、また一文の中に複数のカテゴリーに属する要素が含まれる場合は各要素ごとに、あてはまるカテゴリーに分類された。この分類は、本研究者と本学心理学ゼミ卒業生2名の、計3名によって行われた。2名の卒業生は心理学の専門家ではないが、本学心理学ゼミにて2年間心理学を学んだ上、本学運動部にて4年間活動した者である。卒業生2名は調査対象者と年齢・性別・経歴という点で非常に近く、本研究が扱う問題の当事者に近い視点からの評定を行うことができる。その意味で、調査対象者の生の声にアプローチしたいという本研究の目的にかなった評定者といえる。

自由記述の各文章もしくは文中の要素は、3名のうち2名以上が一致して分類したカテゴリーに分類された。分類が一致しない場合は、三者の協議によってカテゴリーを決めた。このような分類の結果、表1～4の結果を得た。

結 果

1. 友人関係における「空気の読めなさ」自由記述結果

表1に挙げたように、回答内容をいくつかの分類に分けた。

表1 友人関係における「空気の読めなさ」

・自分ばかりしゃべる、自分ひとりだけ楽しそう	14
・一人だけノリが悪い	12
・深刻・真剣な話をきちんと聞かない	9
・まわりが静かなのに大声、テンションが高い	8
・授業中にうるさい、話しかけてくる、 進行をさまたげる	8
・場をしらけさせる、場の雰囲気合わない ことをいう	8
・みんなでやる作業や遊びに文句を言う、 参加しない、一人マイペース	8
・一人で自分勝手な行動をする	8
・言うてはいけないこと(秘密など)を言うてしまう	7
・携帯をいじっているなどして人の話を聞いていない	6
・相手の話を聞かないで話題を変える	6
・他人を傷つけることを言う	5
・冗談が通じない、自分だけ真面目	4
・笑ってはいけない状況で笑う	4
・いやな気持ちなど、感情が顔に出してしまう	4
・ウケないことを何度もやる	3
・真面目にやるべきときにふざけている	3
・公共マナーを守れない	3
・自分の意見を押し付ける	3
・平気で遅刻してくる	2
・自分の置かれた立場を理解できない	2
・自分が和を乱していることに気付いていない	2
・話に割り込んでくる	2

* 2票以上入ったカテゴリーのみ。

1-1. 感情の統制不足

最も多い14回答であったのは、「自分ばかりがしゃべる、自分ひとりだけ楽しそう」というカテゴリーで、その次は「一人だけノリが悪い」というカテゴリーが12回答であった。第4位には「まわりが静かなのに大声、テンションが高い」が8回答を獲得している。友人関係においては、俗にいうテンション(気分の高揚度)の過剰もしくは不足により、他の友人のそれと感情状態が一致しない状態になると、違和感を抱かれるということがわかる。ほかに感情のコントロールに関連するカテゴリーとして、「いやな気持ちなど、感情が顔に出してしまう」も4回答を獲得していた。

相川(2000)の社会的スキルの生起過程モデル改

定版と照合して考えると、この分類は「感情の統制」の不適切さとして捉えることができる。上記モデルでは、感情の統制は、相手の反応の解説過程で生じるものと、対人目標および対人反応の決定過程に伴うものがあるとされている。自分だけ楽しそう、ノリが悪い、まわりが静かなのに大声については前者、いやな気持ちが顔に出てしまうのは後者の感情統制の不適切さの具体的な表れといえる。

一2. 自分勝手・わがまま

「自分ばかりがしゃべる」というカテゴリーは、「テンションが高くてしゃべりまくる」という側面のほかに、他人もしゃべりたいかもしれないのに自分ばかりしゃべるといふ、わがままさを表してもいる。みんなでやる作業や遊びに文句をいう／参加しない、一人で自分勝手な行動をするというカテゴリーも8回答ずつを獲得しており、わがまま勝手が「空気が読めない」という評価に結び付いていることがわかる。ほかにこのカテゴリーには、「自分の意見を押し付けてくる」(3回答)が含まれる。自分のことしか考えていない、自分さえよければいいという姿勢は、後述の3(時と時間をわきまえない)とも関連して、場の空気を読めていない行動の代表的なものと認識されている。

相川(2000)のモデルから考えると、この段階で挙がった各カテゴリーは、相手の反応の解説の段階で失敗をしていることと、結果として他人の意向を汲まずに好きな言動をとっているという対人反応の実行の不都合さを表す具体例として捉えることができる。

一3. 時と場合をわきまえない

「授業にうるさく授業の進行を妨げる」、「場の雰囲気合わないことをいう」、「言っではいけないことを言う」、「笑っではいけない状況で笑う」などのカテゴリーが多くの回答を集めた。これらに共通するのは、その場に居合わせた他の人々の多くが、どうしたいと思っているかを、読み取ることができないという点である。大学・短大生の日常生活においては、「授業が聞こえないし、みんなが先生に怒られることになるので、今はうるさくしないでほしい」とか、「それはみんなの秘密だから、あまり仲の良い人にしゃべってほしくない」、あるいは「落ち込んでいる人をみんなで慰めているので、今はひとりだけ楽しそうに浮かれないでほ

しい」などが読み取れないと、「空気が読めない」と判断されるのである。「冗談が通じない」(4回答)や「真面目にやるべきときにふざけている」(3回答)、「ウケないことを何度もやる」(3回答)も、この分類に含まれる。「公共マナーを守れない」(3回答)も、ここに含まれるものとみなしてよいだろう。この分類も、相川(2000)のモデル上では「相手の反応の解説」と「対人反応の実行」の不具合さとして位置づけられる。

なお相川(2000)のモデルは、一つの言動だけで対人関係が完結するのではなく、ずっと循環してゆくとしている。今回挙がった各カテゴリーは、どれもその場その場で瞬間的に読み取るべきものである。モデルからは、空気を読むとは即時性を求められることであると同時に、一つ一つの些細な行動がらせん構造のように次につながってゆき、特定の他者との対人関係の方向を決めてしまうということを示唆するものといえる。

一4. 他人に対する鈍感さ

「真剣な話をきちんと聞かない」というカテゴリーには9回答が集まった。「携帯をいじっているなどして人の話を聞いていない」と「相手の話を聞かないで話題を変える」には6回答、「他人を傷つけることをいう」には5回答が集まった。2の自分勝手・わがままと関連するが、こちらのカテゴリーは自分を押し通すという側面よりも、他人の気持ちへの鈍感さ、他人の存在に意識が回らない部分を表しているものといえよう。相川(2000)のモデルでは「相手の反応の解説」に当てはまると考えられる。

ほかにこの分類には「話に割り込んでくる」(2回答)、「平気で遅刻してくる」(2回答)も含まれる。こちらは、「対人行動の実行」の過程に不具合がある具体例といえる。

2. 運動部活動における「空気の読めなさ」

表2の自由記述結果から、以下のことがいえる。

表2 運動部場面における「空気の読めなさ」

・みんなが頑張っているのに頑張らない、あきらめる、弱音を吐く	19
・自分の考えを曲げない、話がまとまりそうなのに一人反対	9
・一人だけ違うことを考えている、自分勝手な言動	6
・気が利かない、流れを読んで行動を予測できない	6
・真面目にやるべきときにさぼる、ふざける	5
・先生の機嫌（怒っている等）を察することができない	5
・先生や先輩の指導をきちんと聞いていない	5
・先生や先輩に気が使えない	5
・チームで盛り上がるときにのれない	3
・突然関係ない話をする	3
・言うべきでないこと（秘密など）を言う	3
・団体行動ができない、みんなでの作業に参加しない	3
・さっき怒られたのにすぐ怒られるようなことをする	3
・人を傷つけることを言う	2
・自分の立場を分かっている	2
・いやな気持ちが表に出る	2
・自分が迷惑をかけた（和を乱している）のに反省していない	2
・みんなで声を出そうといっているときに出さない	2
・みんなで荷物運びなどをしているとき楽をしようとする	2
・大会中に競技の応援をしない	2
・気持ちの切り替えができない	2

* 2票以上入ったカテゴリのみ。

一1. 部の目標を共有できない

「みんなが頑張っているのに頑張らない」というカテゴリが、最も多い19回答を得た。「真面目にやるべきときにさぼる」は5回答であった。「みんなで声を出そうといっているときに出さない」が2回答であった。運動部活動は、ある競技の上達や勝利という同じ目的に向かって、みんなが団結して努力することを重要視している。友人場面での「3.時と場合をわきまえない」という分類は、運動部活動ではこの「部の目標を共有できない」という内容が主流となるのであろう。

一2. 自分勝手・わがまま

「自分の考えを曲げない」9回答、「一人だけ違うことを考えている、自分勝手な言動」6回答、「団体行

動ができない、みんなでの作業に参加しない」が3回答、「荷物運びなどで楽をしようとする」2回答、「大会中に競技の応援をしない」2回答という結果であった。運動部活動では、普段の友人関係と比較して団体行動をする機会が多い。そのため、自由記述では集団の和を乱すような、具体的な言動が数種類浮上した。

一3. 目上の人とうまく関われない

普段の友人関係にはない運動部活動特有の側面として、上下関係が挙げられる。「先生の機嫌（怒っている等）を察することができない」、「先生や先輩の指導をきちんと聞いていない」と「先生や先輩に気が使えない」がともに5回答を獲得した。「さっき怒られたのにすぐ怒られるようなことをする」と「自分の立場を分かっている」が3回答ずつを得た。運動部活動は、若者にとって上下関係を学ぶべき場となっているだけに、そのような場でうまく振る舞えないと「空気が読めない」と思われるようである。

一4. 時と場合をわきまえない

部の目標を共有できないという分類に含まれなかったもので、「気が利かない、流れを読んで行動を予測できない」6回答、「突然関係ない話をする」3回答、「言うべきでないこと（秘密など）を言う」3回答、「人を傷つけることを言う」2回答、「自分の立場を分かっている」2回答、「自分が迷惑をかけたのに反省していない」2回答がここに分類された。

一5. 感情の統制不足

「チームで盛り上がるときにのれない」が3回答、「いやな気持ちが顔に出してしまう」2回答、「気持ちの切り替えができない」2回答という結果であった。

なお、各分類に関する相川（2000）のモデルとの対応では、自分勝手・わがまま、感情の統制不足、時と場合をわきまえないなど、友人関係場面と運動部場面で共通する部分も多い。また、友人関係場面と比較して、部の目標を共有できない、目上の人とうまく関われないという、運動部活動に特有の具体的な言動が多く挙げられたといえる。

3. アルバイト先での「空気の読めなさ」

表3からは以下のことがいえる。

表3 アルバイト先における「空気の読めなさ」

・忙しいのにマイペース，他人の仕事を手伝わない，忙しい時に休憩に行こうとする	16
・今しなくていい作業をする，今すべきことに気付かない，仕事の優先順位がおかしい	11
・他人の都合を考えず話しかける，接客中なのに話しかける，仕事中心なおしゃべり	8
・仕事をさぼる，お金をもらっているのに働かない	5
・目上の人や客への礼儀がなっていない	5
・なぜか機嫌が悪い	5
・人の話を聞いていない，会話がかみ合わない	4
・客の前で言うべきでないことを言う，すべきでないことをする	5
・自分の話ばかりする，自分ばかりしゃべる	3
・気が利かない	3
・偉そうな態度，何でも下の人間にやらせる，下が忙しくても手伝わない上司	3
・言うべきでないことを言う	2
・自分の世界に入りすぎ	2
・みんなが一生懸命働いているのにさぼる	2
・急いでいるときにのろい	2
・みんながあせっているのに自分だけ気付かない	2
・自分ひとりだけ上機嫌	2
・客を怒らせる，客に無理強いをする	2
・仕事が残っているのにさっさと帰る	2

* 2票以上入ったカテゴリーのみ。

1-1. 仕事のペース配分の不適切さ

「忙しいのにマイペース」が最も多い16回答、「今しなくていい作業をする，今すべきことに気付かない，仕事の優先順位がおかしい」が11回答であり，この2つのカテゴリーに圧倒的に多くの記述が集まった。他に「急いでいるときにのろい」2回答、「みんながあせっている時に自分だけ気付かない」2回答であった。アルバイト先とは労働の場であり，仕事を効率よくこなすことが求められる，課題達成を目的とする場所である。そのため，仕事のペース配分の不適切さは，他のみんなの苛立ちを最も誘う要因といえる。仕事を効率よくこなすために必要な注意事項はその時々で違い，常に臨機応変な態度が求められる。これがうまくできない人は，「空気が読めない」と認識されてしまう。

1-2. 時と場合をわきまえない

「他人の都合を考えずに話しかける，仕事中心なおしゃべり」が8回答，「仕事をさぼる，お金をもらっているのに働かない」が5回答であった。他に「気が利かない」3回答，「言うべきでないことを言う」2回答，「自分の世界に入りすぎ」2回答，「仕事が残っているのにさっさと帰る」2回答であった。やはりアルバイト先では，“賃金をもらって労働を提供する”という大原則から逸脱する姿勢が「空気が読めない」と判断されている。

1-3. 感情の統制不足

「なぜか機嫌が悪い」5回答，「自分ひとりだけ上機嫌」2回答であった。仕事をする上で，個人的な感情を表に出すのは不適切であるのに，統制がうまくできないことは，場が要求するものにできていないということになる。

1-4. 客や目上の人とうまく関われない

「客の前で言うべきでないことを言う」5回答，目上の人や客への礼儀がなっていない」5回答，「客を怒らせる，客に無理強いをする」2回答であった。仕事をする上で重要なこととして，社会における役割を分担することが挙げられる。店員やウェイトレスといった役割・立場をわきまえて行動しなければいけないのに，それができていない姿勢は，場の要求にできていないといえる。

なお1～4に分類できるもののほかに，「自分の話ばかりする・自分ばかりしゃべる」3回答，「偉そうな態度，何でも下の人間にやらせる上司」3回答があった。これら2項目は，友人関係における“他人に対する鈍感さ”に近いものと位置づけられるかもしれない。

アルバイト場面に関しては，運動部活動と同様に課題達成的な場面であることから，仕事のペース配分という課題達成に直結する部分での問題点が挙げられたといえる。もう一つ運動部活動と共通する点として，上下関係や役割の影響が挙げられる。アルバイト先の上司や部下（自分より後に入ってきた新人など），店の客などという，立場や役割の異なる人々と上手にかかわっていかねばならないのが，職場という場所である。このような特徴が色濃く反映された結果が得られたといえる。なお相川（2000）のモデルとの関係性も，運動部活動場面と類似しているといえる。

4. 空気が読めない人に会ったらどうするか

次に、空気が読めない人に会ったときにどうするかを尋ねた結果をまとめた。表4から以下のことがいえる。

表4 空気が読めない人に会ったらどうするか

・何もしない、(その発言を)スルーする、 放置する、受け流す	32
・冗談めかして指摘する、それとなく助言する	17
・その人と深く付き合わないようにする	14
・適当に(うわべだけで、いい加減に)その人に接する	10
・心の中で「空気が読めない人」と思う、嫌いになる	6
・(はっきりと、直接)注意する	6
・親しい人にはそれとなく助言する	6
・(何とかできればしたいが、できないので) どうしようもない	6
・場の雰囲気が悪くならないようにフォローする	6
・その人を無視する	5
・あまり気にならない、気にしない	5
・様子を見る	3
・面白がる、(空気が読めていないことを)つつこむ	3
・今の状況を説明しなおす	2
・普通に接する	2

* 2票以上のカテゴリのみ。

一1. 何もしない・できない

「何もしない、(その発言を)スルー(看過)する」が第一位の32回答となり、圧倒的に多かった。「(なんとかできればしたいが、できないので)どうしようもない」も6回答であった。非常に多くの場合、空気が読めない人がいても、周りの人は具体的な行動を起こせるわけではないことがわかる。ちなみに「あまり気にならない、気にしない」という意見も5回答あった。この意見は、他者の行動にあまり関心がないか、もしくは関心をもたないようにするという、他者との間に距離を置く姿勢を示している。

一2. それとなく指摘する

「冗談めかして指摘する」が17回答、「親しい人にはそれとなく助言する」が6回答であった。「(はっきりと、直接)注意する」の6回答と比較して、先の2カテゴリの合計は23回答であることを考えると、なかなか本人に直接注意するのは難しいことがわかる。

一3. 関わらないようにする

「その人と深く付き合わないようにする」が14回答、「適当に(うわべだけで)その人に接する」が10回答であった。何もしない・できないという分類とも関わるが、何もできないからこそ、その相手と疎遠になるという方略を取ろうとするといえる。

一4. 嫌いになる

「心の中で“空気が読めない人”と思う、嫌いになる」が6回答、「その人を無視する」が5回答であった。また「(はっきりと、直接)注意する」の6回答は、注意のしかたによっては相手を非難する意図がある場合もあると考えられる。

一5. フォローする

「場の雰囲気が悪くならないようにフォローする」が6回答であった。空気が読めない本人をフォローするのではなく、その人が壊した雰囲気を元に戻し、他のみんなに迷惑がかからないようにするということである。また、少ないが「今の状況を説明しなおす」という意見が2回答あった。これはどちらかという、本人をフォローする方向性にある行動といえる。

考 察

結果のまとめ

友人関係における「空気の読めなさ」とは、主に相川(2000)のモデルにおける「感情の統制」、「相手の反応の解釈」および「対人反応の実行」の過程の不都合さを表すものであることが示唆された。今回挙げられた個々の言動はどれも些細なものであるが、モデルでは対人行動の循環性が示されており、日々の些細な言動がらせん状に循環することによって、対人関係が悪くなると考えられる。

運動部活動場面とアルバイト場面における「空気の読めなさ」は、ともに課題達成を目的としていることと、成員に上下関係や役割があることの影響を受けた内容となっていた。しかし相川(2000)のモデルとの関係性などは、友人関係場面との共通点多かったといえる。

「空気が読めない」人に対して、周りの人ができることは意外に少ないと認識されているようである。空気が読めない言動に対しては、受け流すという反応が主流

である。指摘するにしても、冗談めかしてなど、遠慮がちに指摘している姿が伺える。空気が読めない言動をする人に対する感情としては、「嫌い、軽蔑、迷惑、関わりたくない」などが主流であった。周りの人は迷惑に思いながらも、どうすることもできず我慢するしかなく、その結果相手を嫌いになってしまうということがいえる。

今後の展開

本研究は、本学学生という限られた調査対象サンプルによる、112名という比較的少人数による調査研究であった。今後は、より多くの事例を収集するために、またより多くの場面における「空気の読めなさ」を検討するために、様々な年齢や性別による大規模サンプルによる検討が重要である。加えて、様々な場面における「空気の読めなさ」に関して、測定尺度を構成すること、およびその尺度を用いた実証研究が必要といえる。

社会的スキル教育の重要性

冒頭で述べたように、今日の若者は周りから「空気が読めない」といわれることを恐れている。本研究で示されたように、空気が読めないと判断される言動は、日常生活のどこにでも転がっている。誰でも、時には調査結果に挙げられたような言動をしてしまうことがありうる。しかし本研究では、空気が読めない人に対する評価は厳しいことも示された。

相川(2000)によれば、社会的スキルの不足とそれに伴う対人関係の悪化は、悪循環の関係性にあるという。一つには、シャイネス(内気さ)が社会的スキルの実行を妨げ、それが否定的な自己評価につながり、その結果対人状況を避けるようになり、ますます社会的スキルを学ぶ機会を逸してしまい、より一層シャイになってしまうという悪循環がある。これを、シャイネス(内気さ)に関する認知—社会的学習理論という(Van der Molen, 1990)。また、社会的スキルと孤独感の関連性も、同様の悪循環となっているという。社会的スキルが稚拙であると対人関係がうまくゆかず、周囲から拒否されて対人状況を避けるようになり、その結果孤独感が強くなる。そうすると、自分は駄目だ、嫌われていると思って自己評価が低くなり、対人場面を恐れるようになる。そして、社会的スキルが適切に実行できなくな

る。このように、ますます孤独感が強まってゆく悪循環となる。これを、孤独感に関する社会的スキル欠如仮説(相川, 1998)。という。

しかし考えてみれば、社会的スキルが上手に実行できない子というのは、ほんの少し不器用なだけで、決して「悪い子」なわけではない。本人も、内気さや孤独感に悩んでいるのであり、人との関わりの上手なやり方を知らずに困っているだけだと考えられる。それなのに、排除やいじめの対象になってしまうことがありうるのが現状であるならば、学校教育の中で社会的スキルを教える活動を広めることが重要といえる。相川・佐藤(2006)は、中学校におけるソーシャルスキル(社会的スキル)教育の実践方法を具体的に記している。このような教育が学校現場に積極的に取り入れられてゆくことが、子どもたちの人間関係における今日的な課題を解決するために、ぜひとも必要であろう。

引用文献

- Argyle, M 1967 *The psychology of interpersonal behavior*. Penguin Books.
- 相川 充 1998 孤独感を低減させる社会的スキル訓練の効果に関する実験社会心理学的研究 平成8年度～9年度科学研究費補助金(基盤研究(C)2))研究成果報告書。
- 相川 充 2000 人づきあいの技術—社会的スキルの心理学 サイエンス社。
- 相川 充・佐藤正二 2006 実践!ソーシャルスキル教育—対人関係能力を育てる授業の最前線 図書文化。
- 相川 充・佐藤正二・佐藤容子・高山 巖1993 社会的スキルという概念について—社会的スキルの生成過程モデルの提唱 宮崎大学教育学部紀要(社会科学), 74, 1—16.
- ゴールマン, D. 土屋京子(訳) 1996 EQ—心の知能指数 講談社(D. Goleman, 1995 *Emotional Intelligence: Why it can matter more than IQ*. Bantam Dell Pub Group)

Gresham, F.M., & Reschly, D.J. 1987 Dimensions of Social competence* Method factors in the assessment of adaptive behavior, social skills, and peer acceptance. *Journal of School Psychology*, 25, 367-381.

McFall, R.M. 1982 A review and reformulation of the concept of social skills. *Behavior Assessment*, 4, 1-33.

文部科学省 2006 いじめ問題への取組の徹底について(各都道府県・政令指定都市の教育委員会教育長, 各都道府県知事, 附属学校を置く国立大学法人学長に対する文部科学省初等中等教育局長通知)

内藤 誼人 2004 「場の空気」を読む技術 サンマーク出版.

松村明(監修)2006 大辞泉 増補・新装版(デジタル大辞泉)小学館

Riggio, R.E. 1986 Assessment of Basic Social Skills. *Journal of Personality and Social Psychology*, 51, 649-660.

Salovey, P. & Mayer, J.D. 1990 Emotional Intelligence. *Imagination, Cognition, and Personality*, 9, 185-211.

Sternberg, R.J. 1985 *Beyond the IQ: A triarchic theory of human intelligence*. Cambridge University Press.

Van der Molen, H.T. 1990 A definition of shyness and its implications for clinical practice. In W.R. Crozier (Ed.) *Shyness and embarrassment: Perspectives from social psychology*. Cambridge University Press. Pp 255-285.

和田 秀樹 2007 「場の空気」を読むのが上手な人下手な人 新講社.

山本七平 1977 空気の研究 文芸春秋.

高校生のときのことを思い出してください。高校生活で、特にクラスの中で、どんなときに友達(同性)のことを「空気が読めない」と思いましたか。

お笑い番組やバラエティ番組(クイズ・情報番組など)を見ていて、どういうときに出演者のことを「空気が読めない」と思いましたか。

あなたが「空気が読めない」と思う芸能人は誰ですか。またその理由も教えてください。

あなたは「空気が読めない」とはどういうことだと思いますか。

「空気が読めない」人が「空気が読めるようになる」には、どうすればよいと思いますか。

脚注

(1) 紙幅の関係上本稿で紹介しなかった質問項目は以下の通りである。